子供たちの為に、、
ちょっと待って！！

PTAに対して理解して頂ける保護者はさらに増えてくれる

2023.2月
枚方市PTA協議会　中学校部会　部会長　牧村　剛

PTA事業見直しのポイント

背景

- 少し前までは、PTAと言えば学校や保護者には欠かせないもので、それが本当に必要かどうかなどについては考えることもありませんでした。ですが、近年、PTAに関わりたくないという保護者や先生、PTAから実害を受けた保護者も表れ、現行のPTAは本当に必要な組織なのか、子どものためになっていないPTA組織は抜本的に見直す必要があるのではと議論されるようになってきました。

PTA事業見直しのポイント

目的

- PTAのことになると好意的に思えない人が多いことが問題となるが、PTAの存在自体には意義があることも確かです。問題なのは、PTAそのものではなく、時代に適応したPTAに変えていくことが非常に難しいということです。PTAが抱えている事業を見直し、PTAの仕事量を減らし、保護者の多くがPTA活動に参加しやすい態勢を作ることを目的とする

PTA改革の手順

できるかなぁ？考えてみましょう！！

1. 各委員会等の抱えている事業の棚卸
2. 続けるべき事業、廃止する事業の仕分け
3. 残す事業を元に委員会等組織の再編
4. 組織図、規約などを整備
5. 総会等で保護者の承認を得る

1.各委員会等の抱えている事業の棚卸

※本部も含め、ＰＴＡが係わっている全ての事業をリスト化、見える化にする

※地域の祭り絡みなど外部団体との事業も含める

※本部だけでは労力が掛かるので、先生方を交えての定例会？等で皆さんに協力を仰ぐ

2. 続けるべき事業、廃止する事業の仕分け

※定例会等でリストを公表し、意見を出し合う

※保護者アンケートなどを利用する

※保護者に当事者意識を持ってもらう為、アンケートには「 あなたが役員に選出されたとして必要だと思う活動に◯を、どちらでもよいものに△を、必要だと感じないものに×をつけてください」といった風に、保護者をPTA側に巻き込んだ質問内容にするなどの工夫を入れる

☆事業は誰の為のものか？

☆子どもたちに反映される活動なのか？

☆他にもっと簡素化することは出来ないか？
という視点を持つ

★point

今のPTAには問題点があり、保護者に受け入れられていないという問題点を学校側と共有し、PTA改革に向けて共に協働してもらうように働きかける。

目指すPTA像を設定する。

例えば「保護者と先生方がこどもを中心に据え、意見を述べ合い、学校運営に参加できるPTA」などのスローガンを決めて、一部の保護者の意見だけで進めずに、出来るだけ保護者の回答を多く集めたいという雰囲気をつくる。

また全ての事業に対しては

3.残す事業を元に委員会等組織の再編

※アンケートや話し合いを通じてリストアップした「残すべき事業」を中心に委員会の構成などを整える

※PTAの役割を明確にする

※専門委員会などを廃止して立候補制にし、希望者に担ってもらう組織作り

※研修会や勉強会、分科会などを見直し、平日の昼間はなるべく活動を避けるように組み立てる

※「できる人が、できる時に、できる事を」みんな忙しいのはお互い様！知恵を出し合って平和なPTAを目指しましょう

-事例紹介-

（学校ＰＴＡごとに活動の中身は違うかと思いますが、参考例として）

広報委員会
希望者のみの活動にし、広報誌を廃止し、学校のＨＰ等を活用し、タイムリーな記事のみ作成する
在宅でも記事作成可能
多くの学校は広報費をかなり付けているので大幅な予算の削減にも繋がる

ベルマーク委員会
希望者のみで構成
そうすることにより、参加者のやらされ感は軽減され、参加者同士で話し合い活動時期や方法などをポジティブに行うことができる

行事委員会
講演会、研修会など廃止

学級委員会
学級委員行事の廃止
クラスでの先生との懇談会などを中心に保護者と担任等を繋げる役割は存続
そこで吸い上げた意見を定例会などで意見してもらう

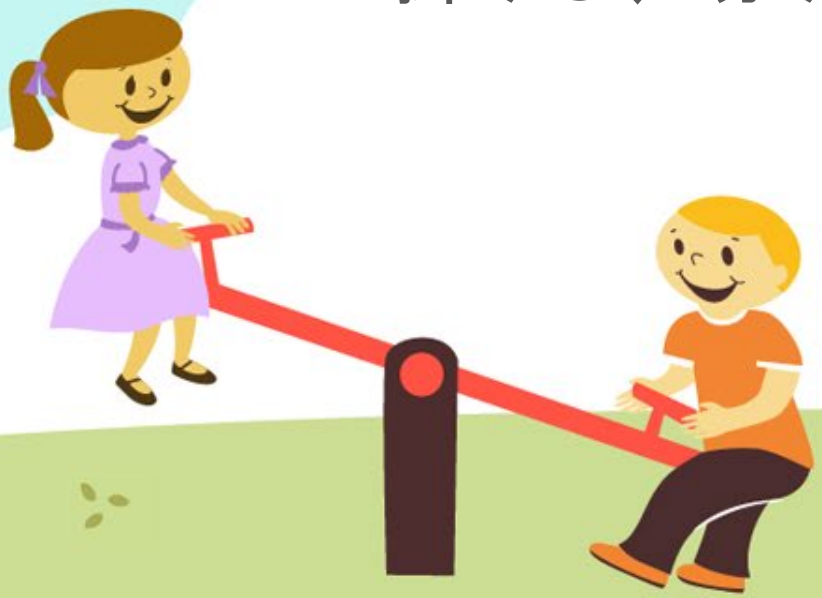
生活指導委員会等
子どもたちの通学路の見守りや校外活動は存続
コミュニティさんとの関係をより深くし、校外での防犯活動の推進に努める
自治会の祭りや年末の夜回りなどは自宅に子どもを残して出ない！などのルール化徹底

定例会
活動を見直すことにより、定例会での議題の変化に期待
学校側では集めきれない、拾いきれない、埋もれてしまうような情報を、保護者が子どもから拾い集めて学校に伝達することで学校運営に大きく寄与し、同時に学校からそれらの情報に対する考えや対応を聞き、他の保護者や地域に発信する、という意義のある定例会に

4.組織図、規約などを整備

※委員会名称も含め、やわらかい委員会名に変える

※規約などは行政書士など専門職の方を保護者の中から声掛けし、助けてもらう



※組織図や規約は慌てて取り組まない

※まずは事業仕分けから

5.総会等で保護者の承認を得る

保護者の皆さんの多くは、子どもたちの充実した学校生活を確保するために、先生と保護者の代表が協議したり連携する場が必要なことは認識していただいています。

もし、ＰＴＡの活動を大幅にへらして、その範囲でできる人が率先して役員になり、代表して学校と協議・連携してくれたら、ＰＴＡに対して理解して頂ける保護者はさらに増えてくれると思います。

会費についても、できるだけ削減し、活動のための保険料など必要最小限にすれば、理解を得ることは可能なはずです。
保護者は子どものことについて、当事者なのだから学校に意見を言って当然です。

ＰＴＡ活動を見直すことにより、多くの保護者が気持ちよく活動に参加し、多くの先生方と意見交換することにより学校の風通しがよくなり、子どもたちがより学びやすい環境を作られることに繋がります。

※臨時総会や通常の決算総会にいきなり改革案は出さない
※定例会や人づてなどで保護者の多くにPTA改革する！ということを根回ししておく

最後に